

## 指定管理者評価シート

事業名	札幌市自閉者自立支援センター運営管理費	所管課(電話番号)	保健福祉局保健福祉部障がい福祉課(211-2936)
-----	---------------------	-----------	----------------------------

### I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市自閉症者自立支援センター	所在地	札幌市東区東雁来12条4丁目1番5号
開設時期	平成17年11月1日	延床面積	328,055㎡
目的	激しい行動障がいや有する自閉症者(児)及びその家族に対する入所、通所による支援を提供し、その自立を目指す。		
事業概要	知的障害者施設入所支援 生活介護事業 自立訓練事業 自閉症・発達障がい支援センターの運営		
主要施設	知的障害者施設入所支援(入所30名短期入所6名) 生活介護事業(44名) 自立訓練事業(6名) 体育館 作業館 自閉症・発達障がい支援センターおがる 交流スペース		
2 指定管理者			
名称	社会福祉法人はるにれの里		
指定期間	令和3年(2021年)4月1日～令和8年(2026年)3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由:管理期間中の管理が良好であると認められたことから、札幌市福祉施設条例第13号第2項及び札幌市自閉症・発達支援障害支援センター条例第6条第2号の規定に基づき非公募とした。		
指定単位	施設数:2 複数施設を一括指定の場合、その理由:共通の目標の下、それぞれ支援を行うなど、極めて関連性の深い業務を行っており、また、一体の施設(建築物)であり、施設の維持管理等に関する業務を統括して行うことで業務の効率化が図られるため。		
業務の範囲	施設維持管理業務、施設事業計画及び実施業務、施設利用承認等業務		
3 評価単位	施設数:2 複数施設を一括評価の場合、その理由:共通の目標の下、それぞれ支援を行うなど、極めて関連性の深い業務を行っており、また、一体の施設(建築物)であり施設の維持管理等に関する業務を統括して行っているため。		

### II 令和3年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価				
1 業務の要求水準達成度							
(1)統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 ▼法人理念のひとつである「どんなに重たい障がいがあっても当たり前の自分らしい生活を送ることができるよう事業運営する」ということを全職員が念頭に置き、個別支援計画に基づきながら「地域の暮らし」の実現に向かうという基本方針を引き続き継続している。 ▼令和3年度は、札幌市自閉症者自立支援センター(以下、ゆい)にとって、札幌市の指定管理者業務5期目(令和3年4月1日～令和8年3月31日)最初の年であった。 コロナウイルス感染予防への取り組みについては、法人全体で感染予防の徹底と、利用者やご家族へも外出等での配慮及び3密を含めた予防啓発を継続しつつ、新しい生活様式の更なる定着や工夫に向けて取り組みを進めた。 時代の流れは常に変化しているが、ゆいの最も大きな使命は、利用者が地域の生活に戻り、安心した豊かな生活を送るための様々な取り組みを続けることである。	○ゆいが果たすべき役割を目指すためのキーワードとして「最前線と最高峰をめざして」を掲げ、そのために6つの具体的な指針を掲げ、柱となる観点からの取り組みを進めた。感染予防への取り組みとして、マスク着用や手洗・消毒の他、日常生活では人との接触を意識した活動や余暇の実践に取り組んだ。入所や生活介護でのコロナ感染は確認されたが、以降拡大することなく経過した。共通認識を持つことで、向かうべき方向性を示すことが重要であった。年末には職員全体でキーワードを振り返り、次年度の計画に繋げている。	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">A</td> <td style="width: 25%;">B</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> </table>	A	B	C	D
	A	B	C	D			
			<p>・基本方針に則り、適正に管理運営がなされている。</p> <p>・強度行動障がいや有する自閉症者が地域の中で生活を送るための組織力及び支援力向上に向けた取組は特に高く評価できる。</p>				

## ▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績

▼新規入所及び通所利用者に関しては、本人の状態や家庭状況、緊急性等のニーズを踏まえ、関係者会議を実施し決定する。令和3年度は、隣接する生活介護事業所なないろが5月に開所となり、ゆいの生活介護から多くの利用者が1ヶ月をかけて移行し、ゆいの生活介護に新たな在宅利用者の受入れをすすめた。

▼短期入所・日中一時支援においては、コロナウイルスの影響から緊急性の高いニーズについての受入れは進めつつも、利用の自粛をお願いする時期もあった。

## ▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

▼ガスの使用に関しては従来通り、冷暖房の空調やパネルヒーターで使用する冷温水を各所へ送るプログラム操作の「一括管理」を行うことで、ファンやポンプ系の稼働減・ボイラーの稼働減を推進し省エネに努めている。

平成28年度からは季節に応じた使用を前提とした契約～「小型空調用B契約」により、年間を通してフラットな使用により割安になるプランを継続している。ガス使用量は前年度比で4.9%増となっているが減少傾向にある。

▼ガソリン・軽油の使用に関しては、隣地に新しい生活介護施設を整備したことにより、保有車両の削減効果で前年度比約33%の減、利用者の作業体制見直し等により軽油を使用する車両の使用頻度が減少したことにより約76%の減となった。

▼電気使用量については、節電意識の醸成により、前年度比4%の減となった。

▼各エネルギー・資源の節約に関しては、継続して廃棄物の減量・リサイクル(「廃油の買取」・「裏紙の再利用」・「ダンボール・ペットボトル・缶の業者回収」等)に努めた。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

▼入所のABCブロックにおいては変則勤務のため、全員が集まることは難しい。ABCブロックだけでなく生活介護も含め、月に2回管理職も加わったスタッフミーティング、ユニットカンファレンスを実施した。生活介護事業所については、常時利用者が活動しているため、利用日ではない月に一度の土曜日に職員が集まりミーティングなどで情報の共有が出来る日を設ける取り組みを継続した。不適應行動への対応として、早期に情報の共有を行い、適切な介入ができるようグループウェアやメール等を活用した他、短時間、少人数でもケースカンファレンスを開くよう心掛けた。また各チームのリーダーが参加するゆい体制会議を偶数月のスタッフミーティング日に開催し、ゆい全体の日課や体制等、業務効率化について協議することができた。奇数月は各チームのケースカンファレンスの時間とした。

▼隣接地に開所した地域生活支援センターなないろへの移行については、個別支援計画に沿った支援の他、各種準備を計画的に行うことによりスムーズ

○令和3年度は、ゆい生活介護利用者の多くがなないろへ移行した。事前の準備やシミュレーションを行うことで、スムーズに移行することができた。一方で、ゆい生活介護の新規利用受け入れについて年度途中からの新規利用はニーズと合わないことも起因し、新規利用は3名であった。

短期入所については、新型コロナウイルス感染予防の観点から、利用頻度は低かった一方で、受入れの際は行動履歴や健康状態を確認すると共に、フェイスシールドや防護衣着用など感染予防の徹底に努めた。

○特に電力消費については、Webでモニターでき、使用量が多い時間帯や月を把握できデータを基にした職員や委託業者への呼びかけが効果的だったと考える。ガスの使用は、主に厨房が大半を占めているので、委託業者への説明と協力を促しており、平年で見ると減少傾向にある。ガソリン等は体制の変更によりかなり使用量を抑制することができた。

○ゆいが大切にしている一つである「組織力を高める」というキーワードを全体に周知している。運営カンファレンスはゆいに求められるニーズや収支状況など各リーダーの運営参加意識をさらに高める場であり、リーダー・サブリーダー会議も各チームで毎月行うことができた。

○各職員の役割を明確に位置付け、サブリーダーのミーティングを年2回開催した。それぞれのチーム事情はあるが、サブリーダーとしての役割や求められることをあらためて互いに確認した。

にすすめることができた。

▼新型コロナウイルスの感染予防を意識した取り組み(健康状況の確認、帰省時における感染予防のお願い、最少人数での会議・リモート研修・情報伝達の徹底など)を継続させることができた。

▼新人職員と先輩職員がコンビとなってフォローしていくエルダーメンター制度を継続している。

令和3年度はフォロー期間を6か月とし、先輩職員の役割として具体的なサポート内容を示し確認した。

月に2回ある運営コンファレンスで、新職員の業務遂行状況を確認した他、新職員のためのミーティングを6月に開催し3か月間の振り返りと自身の仕事に対する目標の確認を行った。また8月に先輩ミーティングを開催し、新職員に対応する際の工夫したことなどを話し合い、情報を共有することができた。ミーティングの内容はリーダーやサブリーダーとも共有し、チームとしてサポートしていけるよう取り組んだ。

▼スタッフの負担を減らすだけでなく、新たな人材発掘のためパートの増員を図るべく募集を募った。継続雇用のパート2名のうち2022年度に1名の本採用が決まった。そのほか新たに1名のパートを雇った。

▼人材育成を推進するための研修機会として、ゆい塾を年4回開催した。自閉症の理解に繋がるものや、グループホームの暮らしに向けた大切な取り組み、社会人や組織人としてのコミュニケーション、健康や権利を守ることの大切さと具体的な方法、各チームの1年間の総括などである。いずれも新型コロナウイルス感染予防のため動画配信での視聴参加とした。

その他、座学である法人内研修についてもリモート開催など、感染予防を意識して参加した。

#### ▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼『チーム支援』と称し、入所ABC各ブロックと生活介護の4チームでそれぞれ実践テーマを設定し、関係する職員全員が関わり、取り組んだ内容をスタッフミーティングの場で発表する機会を設けた。新型コロナウイルス感染防止の観点から、スタッフミーティングは最少人数での参加としているため、取り組みの報告を撮影し動画配信とした。毎年新職員が加入するが、その中でもチームで考え支援する意識が浸透し、結果として利用者のQOL向上に繋がっている。

▼法人内研修やおがる主催の研修に、複数の職員が参加した。リモート参加が主ではあったが、時間の制約なく視聴できるメリットがあったと考えている。また強度行動障害支援者養成研修についても、受講生やインストラクターとして参加し、多くの学びを得ることができた。

▼今期大阪で開催される予定であった5法人コラボレーションセミナー(北摂杉の子会様、横浜やまびこの里様、函館侑愛会様、国立のぞみの園様、はるにれの里)は、新型コロナウイルス感染予防のため、ウェブでの開催であった。例年同様に多くの実践を学ぶことができた。

▼ゆい塾では、多くの学びを提供するだけでなく、複数の職員が発表する場を設け、プレゼン力の向上に向けても取り組むことができた。

▼リモートではあったが、外部研修(福祉制度やメンタルヘルスに関するもの、強度行動障害に関するものなど)にも可能な限り職員を派遣し、それぞれのスキルアップやチームへの還元を目指した。また、法

○作業委員会・環境向上委員会・人権推進委員会・余暇委員会の各委員長が集まるミーティングを年2回開催し、各委員会がゆいの中でどのような役割を担っているのか、すべての職員が委員会に参画するための工夫など互いに確認することができた。また、それぞれの委員会活動が全体に周知されるよう、グループウェアでの情報発信や事務所内にある「掲示板」の活用、またゆい塾と称した研修でも各委員からの振り返りを動画配信した。

○人事異動により新しく配属された職員が多い中で、学びを深めようとする意識が高くあるため、コロナ禍ではあるが、その想いが継続されるよう応援したい。

○エルダーメンター制度について、新職員から好評であった。また「先輩パティミーティング」を実施し、先輩職員からも、自身の学びが深まったことなど情報交換することができた。

○ゆいが大切にしたいことの中で「支援力を上げる」というキーワードで全職員に伝えている。各チーム年間で3つのテーマに取り組む「チーム支援」を実施した。各チームでアンケートを取るなどチームで考える意識が年々高まっている。それぞれの取り組みを啓発するために、コロナ禍ではあるが、最少人数で開催したスタッフミーティングで報告をした他、職場内スレッドの活用、事務所内の掲示コーナーや、報告を動画で配信するなどを行った。

○ゆい塾に関しては、「自閉症の基礎理解(5月)」「グループホームを知る、震災への対応(7月)」「コミュニケーション、感染症について(11月)」「ゆいバリューの振り返り、各委員会活動の振り返り、虐待防止、気道閉塞(2月)」の4回を開講した。いずれも新型コロナウイルス感染対策として動画配信した。

人内事業所への研修派遣も実施し、多くの職員が何かの研修に参加することを目指した。

▼当初予定していた実習生の受入れについて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、全て中止することとなった。一部リモートで当センターの取り組みや法人の理念など情報交換することができた。

▼社会人としての成長を促すために、令和3年度は「勤務開始時刻には、仕事をバリバリはじめられるようにしておこう」「感染予防対策を実践しよう」「コロナウイルス対策を実践しよう」とした。少しずつの積み重ねが大事であると考えている。現場職員からの意見も参考にした目標設定を次年度も作っていききたい。

▼毎朝の打合せで、その日意識していきたいことを伝える取り組み【月曜日～交通安全、火曜日～あいさつ、水曜日～人権、木曜日～清掃・整理整頓、金曜日～エコ】を行い意識づけを図った。水曜日の「人権」を意識する曜日については人権推進委員会からの提案で、「利用者と同じ目線で関わりたい」というなど、より具体的な指標を示すことが出来た。

▼人権への取り組みとして、令和3年度は「利用者対応に関するセルフチェック」を2回実施。結果から見えた課題や1回目と2回目との数値的变化等について分析し、委員会から広報を発行し、フィードバックすることができた。

▼ディスカバリーレポート(事故に繋がる課題を発見する)の運用と書式を一部変更している。よりシンプルに、より報告しやすい仕様に変え、情報共有した

#### ▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼厨房委託及び清掃業務については、窓口担当職員が決まっており、日々の現場での作業の確認を行っている。また、受託先の担当管理者とはその都度打合せの会議を行うなど情報共有し、問題・課題解決に対応してもらえるようにしている。

▼施設設備管理については、点検計画に基づいて定期的に実施しており、報告書により都度確認している。また、消耗品の交換、機器の不具合についても随時対応している。

▼新型コロナウイルス感染症対策として、日常の清掃に次亜塩素酸ナトリウムの使用を徹底するなど、受託業者と連携しながら、感染症予防対策を継続している。

#### ▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 令和4年 3月9日(水) 資料郵送	1. 令和3年度運営状況報告 2. 令和3年度事業報告 3. 令和4年度事業計画 4. 意見交換(書面にて)  以上の件について、報告・助言頂いた。
<協議会メンバー>  札幌市障がい福祉課運営指導係長／札幌市自閉症児支援さぼ 施設長／北海道自閉症協会 副会長／札幌市東区東雁来連合町内会 会員／特別養護老人ホームひかりの 施設長／(有限) カラーズ 代表／(社福)はるにれの里 理事長／事務局(所長・事務長・業務課長)	

束として動画配信とした。  
○法人内でもさまざまな研修が行われた。動画配信が中心であったが、都合の合う時間での視聴が可能となるメリットがあった。

○利用者の特性上、多くの配慮が必要であることから、調理業務については、食塊や調味料の調整、減塩に取り組んだ。清掃では、利用者の行動に配慮した作業を実施している。設備管理についても、利用者への配慮、作業日や時間の調整など細心の注意を払った。

○入所者の新型コロナウイルス感染者はゼロ。

○今年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、書面による会議形式とさせて頂いた。郵送した書類を確認し、ご意見を文書にて返送して頂く形で実施した。事業報告は、パワーポイントと補足資料を添付することで、取り組みを具体的に説明できるように作成した。

札幌市自閉症・発達障がい支援センター(以下、おがる)においては、令和4年2月18日に連絡協議会を新型コロナウイルスの感染拡大防止のためオンライン(欠席者は書面)での開催をした。令和3年度の取り組みについての報告と、次年度の展望についての報告し、意見を返送いただき、その回答を再度関係機関へ書面にて周知した。参加者は、札幌市ピアサポーター、ペアレントメンター事務局、札幌市基幹相談支援センターワンオール、札幌市自立支援協議会(各専門部会)、札幌市精神保健福祉センター、子ども発達支援総合センター、札幌市教育センター、札幌市教育委員会、札幌市知的障がい者更生相談所まあち、札幌市児童相談所、札幌市子ども未来局、ハローワーク札幌、北海道障害者職業センター、札幌弁護士会、北海道警察本部生活安全部少年課、札幌弁護士会、札幌市障がい福祉課の方々であった。

#### ▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

- ▼資金管理については、「施設入所・生活介護会計」・「発達会計」の2会計による拠点区分間経理を行っている。また、監事監査による「内部監査」に加え、会計事務所による「外部監査」も受けている。
- ▼施設の現金等の取扱いについては、「法人経理規程」に基づき、利用者小遣いについては、「親和会規定(親の会)」に基づき処理している。親和会は、年2回の監査を受けている。
- ▼平成27年度から、新「社会福祉法人会計基準」に移行。平成28年度からは、新会計基準により適した「財務ソフト」にバージョン・アップし、固定資産管理(減価償却費計算)を法人自らがやっている。
- ▼札幌市の事務指導で指摘を受けたことに関しては即改善を図っている。

#### ▽ 要望・苦情対応

- ▼第三者委員として利用者相談員2名(外部)を委任している。今年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、相談員に資料を郵送し、ご意見を書面にて返送して頂く形にて実施した。一年間の日々のやりとりの中での要望・苦情等に関して報告し、助言を頂くことができた。
- ▼利用者やそのご家族とは、年3回の個別支援計画をもとにした個別懇談会(令和3年度は書類を郵送し、電話連絡)も実施し、支援の内容等をご家族とともに確認している。また、毎年保護者の方向けにアンケート(満足度調査)調査も実施している。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)  
▼札幌市への月次報告を行っている。また実地指導を年1回受け、業務の改善について逐次助言を受けられるようにしている。

○オンライン会議システムを活用し、書面以外でも報告、関係機関とのテーマトークの機会を作り、当センターの実践への感想、次年度の取り組みについてご意見を伺うことができた。

○資金管理については、規定に従い厳正に処理している。ゆい・おがるに関しては、外部の会計事務所のコンサルの指導に基づき、また、「親和会」については、保護者監査、職員複数名により精査を行っている。現金及び通帳、印鑑の管理についても、複数が関与しなければ取り扱えないシステムとし、不正防止に努めている。

○令和3年度は苦情はあがっていない。コロナウイルス感染予防で、従来通り会えていないことによる不安や心配は感じられる。相談員へ郵送した資料については、ご家族との懇談や電話連絡等で寄せられた不安や心配について、実際にどのようなやりとりを行い、どのように対応したかをまとめ、報告している。

			A B C D
(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)</p> <p>▼就業規則を入所ABCブロック、生活介護、事務所に置いてあり、それぞれの職員がいつでも確認できるようにしている。</p> <p>▼職員には年間公休日107日以上を保証している。</p> <p>▼本人の休日や有休の希望に沿った勤務シフトを作成している。</p> <p>▼職員に対しては、時間外労働や夜勤業務を行った場合、法定割合以上の割増賃金を支払っている。</p> <p>▼パート職員の時給は、最低賃金889円(令和3年10月)を上回る時給980円を支給している。</p> <p>▼年に1回定期健康診断を実施し、深夜業に従事する労働者には更に1回の定期健康診断を実施した。</p> <p>▼産休や育休に入る女性職員が毎年数名いるが、妊娠が分かった時点で、勤務に無理がかからないよう配置等の変更をすぐに行うようにしている。また、子育て中の職員に対し、お子さんの体調によって有休の使用等可能な限り配置上の配慮を行っている。</p> <p>▼人事考課制度を導入し、職員個々の目標設定と振り返り、意見交換などを上司と行った。</p> <p>▼セクハラやパワハラに対する相談窓口がある。</p> <p>▼嘱託職員から正職員への登用試験について、毎年実施している。(ゆいでは該当者なし。)</p> <p>▼休憩スペースを建物内に複数設け、飲み物やお菓子などを置いている。新型コロナウイルス感染対策として、個別の仕切り版や消毒セットを設置した。</p> <p>▼労働安全衛生面については、衛生推進者をおき日頃から適切な労働環境に留意しており、特に事故等は発生していない。また、メンタルヘルスについては、法人が提携している専門機関に随時相談できるようになってる。</p>	<p>○令和3年度も産休や育休の他、時短勤務での育休復帰調整も行った。また今期も全ての職員が5日以上の有給を取得するよう啓発を行ったこともあり、全ての職員が有給を取得することができている。</p> <p>○職員数に余裕があるわけではないが、本人の希望に沿った勤務シフトを作成している。また、常に見守りを必要とする利用者への支援が業務である中でも、引き続き休憩時間の確保に努めた。</p> <p>○事故や安全衛生の問題としては、人権推進委員会や環境向上委員会を中心に、事業所全体の問題としてディスカバリーレポートや事故報告を全体で周知し啓発をおこなった。</p>	<p>A B C D</p> <p>・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。</p>
(3)施設・設備等の維持管理業務	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <p>▼非常災害対策全般については、各種訓練の実施、関係設備の点検、緊急時の職員招集連絡網確認、食料飲料水の備蓄管理を行っている。</p> <p>▼緊急時の対応マニュアル(火事・震災・衛生・感染・入浴・事故など)を整備し、スタッフミーティング等で職員の啓発を常に行っている。特に、事故やディスカバリー(ヒヤリハット)報告があったものについては、人権推進委員会から、全職員に情報の発信を行った。</p> <p>▼防犯対策では、不審者侵入時の対策についての整備を継続している。1)正面玄関を人が通るとセンサーが事務室内で作動する 2)入所棟・通所棟への入口は外側からはカギがなければ入れないようにしている 3)建物周辺に監視カメラを設置し事務室にモニターを置いている。4)職員通用口の開錠パスワードの変更。</p> <p>▼利用者による建物への破壊行為等物損に関して損害保険加入を各個人にお願いし対応している。</p>	<p>○令和3年度は避難訓練(日中想定、夜間想定)、防災関連機器講習を実施し、火災発生(想定)場所を毎年変更し、避難経路の確認、火災報知器等の操作確認等を行った。救急救命法の講習については、新型コロナウイルスの感染予防の観点から実施することは出来なかったが、総務省が配信している「一般市民向け応急手当WEB講習」動画を視聴した。また環境向上委員会を中心に、誤嚥や感染症について啓発動画を配信した。</p> <p>○地震発生の教訓から、情報伝達の方法や、非常災害物品、食料、飲料水などの備蓄、車両や発電機の燃料確保等の確認した。</p> <p>町内会長や近隣の高齢者施設と情報交換し、災害時や停電時の連携について協議した。</p> <p>○水害に対しての訓練を実施し、利用者への配慮すべき占などを確認した。</p>	<p>A B C D</p> <p>・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。</p>

	<p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p>▼計画清掃の実施、警備計画による防犯対策、設備の定期保守の実施を滞りなく実施している。施設備品管理は札幌市貸与分と施設所持分と別管理している。</p> <p>▽ 防災</p> <p>▼計画に基づき消防等避難訓練を実施した。また、河川の氾濫に備えての水防計画を作成し、職員による避難シミュレーションとそれに基づいた利用者訓練を実施した。</p>	<p>○札幌市による自家発電装置整備が完了した。設置直後、局所的な停電があったが、瞬時に作動し安全安心が確保された。</p>					
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ 自閉症・発達障がいに関する学習機会の提供業務</p> <p>▼おがるでは、令和3年度実績で、主催または共催研修、講師派遣205回(5292人)を実施している。</p> <p>▽ 自閉症・発達障がいに関する情報収集及び提供業務</p> <p>▼おがるでは、ホームページ等で自閉症や発達障がいに関する情報や他機関主催の研修会情報などを随時お知らせしている。</p> <p>▼おがるでは、コロナ禍でも支援者や一般の方が発達障害に関する情報が得られるように、YouTube上に公開動画や申込者限定の動画を用意している。</p> <p>▼ゆいでは、定期的にホームページの更新をおこなっている。</p> <p>▽ 自閉症や発達障がいに関する相談業務</p> <p>▼おがるでは、ご本人・ご家族・支援者の方々への相談支援、発達支援、就労支援、機関コンサルテーションなどを行っている。その件数については、(5)の項で示す。</p>	<p>○全国一の児童デイの数や就労系事業所の増加、または他分野での発達障がいの問題のため、できる限り多くの講師派遣を実施することができたが、まだまだ研修の依頼に対応していく必要がある。</p> <p>○月1回のホームページ制作会議を行い情報量を増やしてきた。今後は他の専門機関と連携してさらに充実したホームページにしていく。また、啓発にかかわることも含めて、今後もオンラインを活用し、メニューを増やしていく方向性で考えている。</p> <p>○今年度も引き続きオンラインで対応できる業務は可能な限りオンラインを活用しながら業務に取り組んだ。オンラインを含め相談できる環境を整えていくのも今後の課題としてあげられる。</p>	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>・当事者やその家族、支援者等への支援を目的とした研修や講師派遣、ホームページでの周知等により、自閉症・発達障がいに対する情報等の普及啓発活動を積極的に実施している点は特に高く評価できる。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				

(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等(ゆい)				A	B	C	D	
		R2実績	R3計画	R3実績					
(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等(ゆい)	入所	件数(件)	370	370	372	○入所は30名定員のところ31名の利用。短期入所は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用を自粛した結果13%の実績。生活介護も新型コロナウイルス感染拡大の影響により通所利用者の自粛及び閉鎖がなされ83%の実績となった。	・自閉症者自立支援センターに関しては、概ね計画どおりの事業実績であり評価できる。短期入所の稼働率は、引き続き稼働率の向上に向けた取組を進めていく必要がある。 ・自閉症・発達障がい支援センターに関しては、概ね計画を上回る実績となっており、業務の要求水準を十分に達成している。	
			人数(人)	11.123	11.315	11.309			
			稼働率(%)	101.65%	103%	103%			
		短期入所	件数(件)	85	72	35			
			人数(人)	497	204	294			
			稼働率(%)	22.7%	9%	13%			
		デイ(生活・訓練)	件数(件)	631	528	473			
			人数(人)	13.392	9.676	9.609			
			稼働率(%)	117.1%	85%	83%			
	▽ 利用件数等(おがる)	相談支援 発達支援	件数(件)	884	1,030	762			○新型コロナウイルスの影響もあり、相談支援など、昨年度より件数が少ない数字も見られるが、オンラインの活用や電話受付を中心に相談や機関支援などを実施し、件数を維持に努めた。
			人数(人)	483	600	427			
		就労支援	件数(件)	111	50	76			
			人数(人)	42	30	31			
		機関 コンサル	件数(件)	1,351	400	694			
			箇所数	130	100	138			
個別調整会議		回数	84	100	95				
▽ 不承認0件、取消し0件、減免37件、還付0件									
▽ 利用促進の取組 特別支援学校への利用呼びかけ、相談支援事業所との連携を積極的に実施している。									
(6)付随業務		▽ 広報業務	▼インターネット上で法人ホームページ及び事業所のページを掲載している。http://www.harunire.or.jp/ ゆいのページでは、随時、イベント報告や実践報告等をアップしている。おがるのページではさまざまな研修会情報をお知らせしている。			○強度行動障がいを伴う重度の自閉症の方々への支援や地域移行に対する取り組みは、全国でも関心が高く、ゆいで実践している取り組みについては、例年見学などを通して説明している。今年度は、感染拡大防止の観点から、見学などの機会が少なくなってしまったが、受け入れ出来る時期には対応している。○また、見学を実施した際には、感想や意見などを頂く機会を設けることができるように努め、頂いた意見を関係者にて振り返る場も設けている。			
	▼当施設への見学者であるが、感染拡大防止のため受け入れを自粛していたこともあり、比較的感染者が減少していた11、12月に6組、計16名の方々が来所されている。保護者と当事者、学校教諭、障がい者施設などの見学依頼に対応している。大学からのアンケート調査にも協力している。また大学生アルバイトの新規採用もできており、感染予防での自粛期間ではあるが、自閉症についての啓発にも繋がっていると考える。								
		▼ウェブアクセシビリティの取組について 総務省みんなの公共サイト運用ガイドラインに基づき、日本工業規格の適合レベルAAIに準拠するよう、当法人とマルチベンダ(保守)がダブルチェックを行う。			・各種広報媒体を利用した活動は評価できる。 ・強度行動障がい有する自閉症者の地域移行の実績の高さや取組内容が高く評価され、コロナ禍においても相当数の見学依頼を受けていることから、広報業務は適正になされていると評価できる。				
		▽ 引継ぎ業務 該当なし							

2 自主事業その他		A	B	C	D
▽ 自主事業	<p>▼近隣のグループホームに空き室があるため、1名の利用者が移行に向けて準備や体験利用を行ったが、コロナウイルスの感染状況を踏まえ一時休止することとなった。今後も、感染の状況やタイミングを図り、グループホーム移行に向けてのチャレンジを進めていきたい。</p> <p>▼地域生活に戻るチャンスがあればいつでも送り出せるよう準備をしている。コロナ禍ではあるが、感染の状況を確認しつつ今後も職住分離や余暇活動の充実、社会資源発掘など地域生活の実現に向けたシミュレーションを継続していくというスタンスを維持していきたい。</p> <p>▼ゆい生活介護の利用者をこれ以上受入れることが難しいことから、新たに隣接地に生活介護事業所なないろを立上げた。2021年5月に開所し、1か月をかけ順次移行をすすめた。</p> <p>▼新たな作業として、「たい肥」販売を試験的に開始した。これは同法人のふれあいきのこ村で椎茸栽培を終えた廃菌床を原料としたもので、不純物の除去や袋詰め、成分表示用のシール貼り、運搬など、作業工程も豊富なため、多くの利用者が関われる作業として期待している。また利用者のアート作品をLINEスタンプとして販売するための準備をすすめた。</p>	<p>○ゆいの地域移行を進める上でゆいの近隣にあるグループホームよもぎの体験利用を活用している。今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、1名の方が延べ18日の利用であった。体制の都合上もあり、月に数回程度の実施に限られてしまうという現状はあるが、スタッフも利用者も地域での生活イメージを持つことで、課題と対策を考えることができた。特に新型コロナウイルスの感染については、ゾーニングなどのイメージを持ち対応することが出来た。</p> <p>○新たな生活介護事業所なないろが開所した一方でゆいの生活介護事業所に新たな利用者の受け入れを進めた。年度途中からの新規利用については利用開始時期のニーズが合わないことも起因し、新規利用は3名であった。</p> <p>○たい肥の販売については、成分検査を実施するとともに過去二年間の臨床実験を行い一定程度の成果を得ることができたことから、販売することとした。作業工賃の支払いに向けて本格稼働させていき</p>	<p>A B C D</p> <p>・適正に事業を実施している。</p>		
▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等	<p>▼前年度に引き続き就労継続支援施設(精神障がいの方が多い)へ軽微な施設修繕等を依頼し、障がいをもった方に作業をしてもらっている。</p> <p>▼在宅生活者の施設利用について、隣接施設なないろと連携して推進している。</p>	<p>○就労継続支援施設への修繕依頼については、利用者特性に合った対応がなされている。</p> <p>○隣接施設なないろと連携した市内在宅生活者への支援を推進している。</p>			

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

▼札幌市自閉症者自立支援センターゆいでは、令和4年2月に親和会会員のご家庭にアンケート調査用紙を郵送した。回答数は29で回収率は約94%となっている。昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響があり、活動や懇談などの自粛が続いているが、その中で対応に感謝の言葉を頂いている。

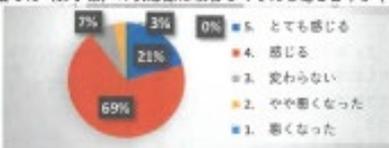
○全体の評価では、5段階評価の4以上(とてもよい、よい)は、88%となっており前年比+4%としている。コロナ禍でもニーズに応えられるように、オンラインの活用も増えている。全職員及び親和会総会にて回答結果を示している。

A	B	C	D
---	---	---	---

・要求水準を上回る満足度であり、評価できる。

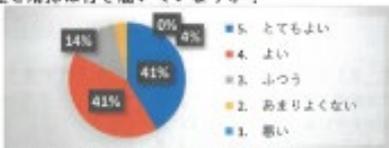
〈質問 1〉 当センターを利用して、利用者さん(お子様)の状態は改善してきたと感じますか？

- 5. とても感じる 6名
- 4. 感じる 20名
- 3. 変わらない 2名
- 2. やや悪くなった 1名
- 1. 悪くなった 0名



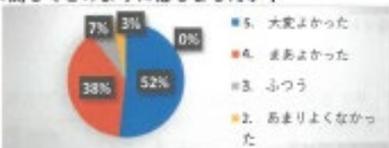
〈質問 2〉 当センターの建物の管理と清掃は行き届いていますか？

- 5. とてもよい 12名
- 4. よい 12名
- 3. ふつう 4名
- 2. あまりよくない 1名
- 1. 悪い 0名



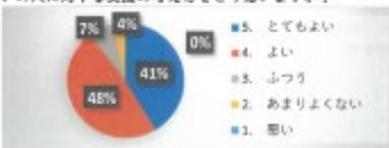
〈質問 3〉 当センター職員の接遇に関してどのように感じましたか？

- 5. 大変よかった 15名
- 4. まあよかった 11名
- 3. ふつう 2名
- 2. あまりよくなかった 1名
- 1. 悪かった 0名



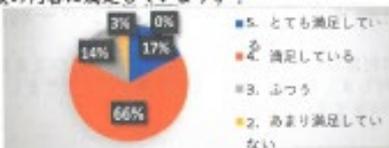
〈質問 4〉 当センターの自閉症や発達障がいの人に対する支援の考え方をどう思いますか？

- 5. とてもよい 12名
- 4. よい 14名
- 3. ふつう 2名
- 2. あまりよくない 1名
- 1. 悪い 0名



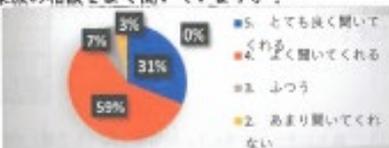
〈質問 5〉 個別支援計画に係る懇談の内容に満足していますか？

- 5. とても満足している 5名
- 4. 満足している 19名
- 3. ふつう 4名
- 2. あまり満足していない 1名
- 1. 悪い 0名



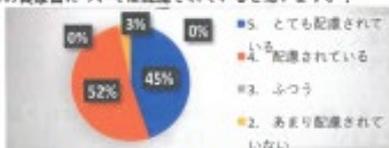
〈質問 6〉 職員は利用者さんやご家族の相談をよく聞いていますか？

- 5. とても良く聞いてくれる 9名
- 4. よく聞いてくれる 17名
- 3. ふつう 2名
- 2. あまり聞いてくれない 1名
- 1. 聞いてくれない 0名



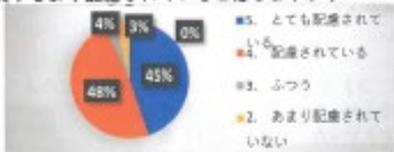
〈質問 7〉 日常生活において、利用者さんの健康面については配慮されていると思いますか？

- 5. とても配慮されている 13名
- 4. 配慮されている 15名
- 3. ふつう 0名
- 2. あまり配慮されていない 1名
- 1. 配慮されていない 0名



〈質問 8〉利用者さんの余暇が充実するよう配慮されていると感じますか？

5. とても配慮されている	13名
4. 配慮されている	14名
3. ふつう	1名
2. あまり配慮されていない	1名
1. 配慮されていない	0名



〈質問 9〉当センターの総合的な満足度は次のどれに当てはまりますか？

5. とても満足している	13名
4. まあ満足している	14名
3. ふつう	1名
2. 少し不満を感じる	1名
1. 不安を感じる	0名



〈質問 10〉

当センターに対するご意見やご要望がありましたら、お書きください。

- ・コロナ禍で職員の皆様も大変だと思いますが、よろしくお願ひ致します。
- ・いつも多くの事に配慮されていると思います。一日も早くコロナ、他のウイルスも終息して普段通りになる事を願っています
- ・コロナ禍で大変な中、よろしくお願ひします。
- ・休日のスケジュールが知りたいです。
- ・感染者が増えるなか御支援ありがとうございます。感謝いたします。

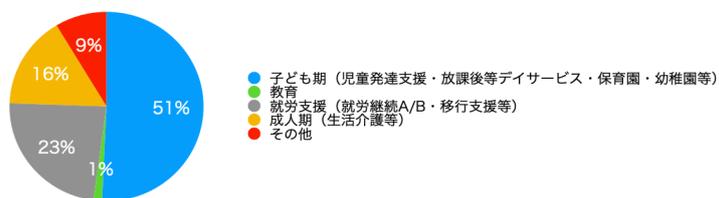
※アンケートのご協力ありがとうございました。

▼札幌市自閉症・発達障害支援センターでは主催研修(発達障がい講座スタンダード)と機関支援についてアンケートを行った。

アンケート回答方法 各回最後に回答 Googleフォーム方式

参加人数(全3回合計) 324名  
アンケート回答 278件(回答率 86%)

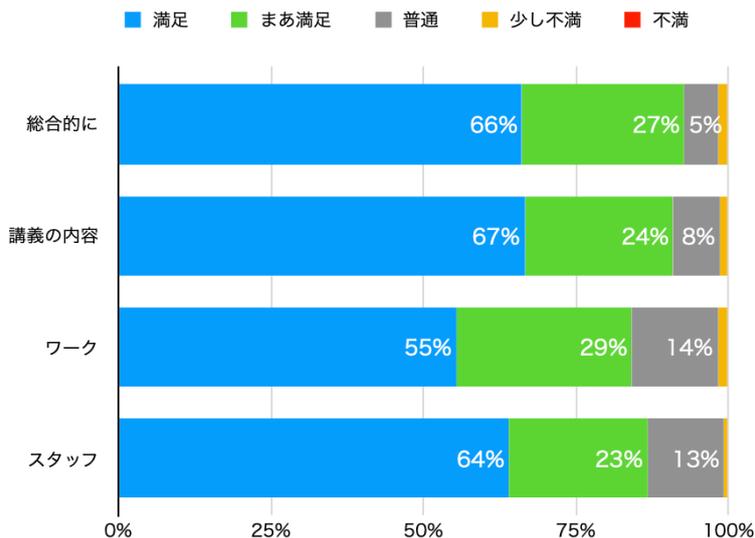
■業種を教えてください



■「その他」の業種

子育て支援/相談支援事業所/ヘルパー/児童会館/グループホーム/医療 等

■ 研修会について



## 2021年度 機関支援アンケート

配布：121機関

(2021年度4月～12月までに機関支援を実施した機関)

回答：98機関

回収率：81%

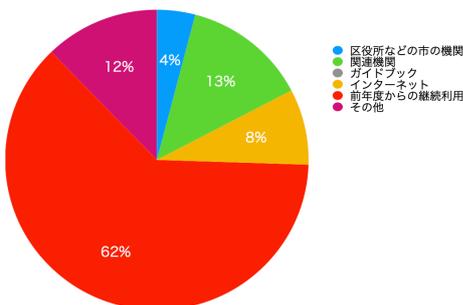
1.当センターの情報について (どのようにしてお知りになりましたか)

区役所などの市の機関	4
関連機関	13
ガイドブック	0
インターネット	8
前年度からの継続利用	61
その他	12
計	98

【その他】

おがのスタッフが講師を務めた研修会に参加  
同業者からの紹介  
医療機関からの紹介

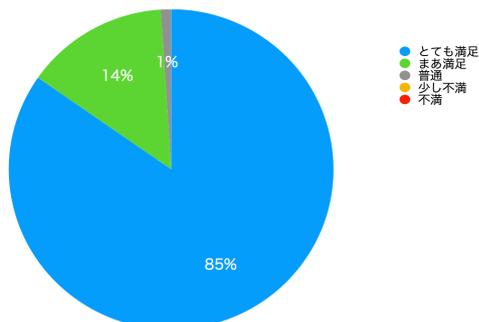
1.当センターの情報について (どのようにしてお知りになりましたか)



2.当センターの機関支援の利用について

とても満足	83
まあ満足	14
普通	1
少し不満	0
不満	0
計	98

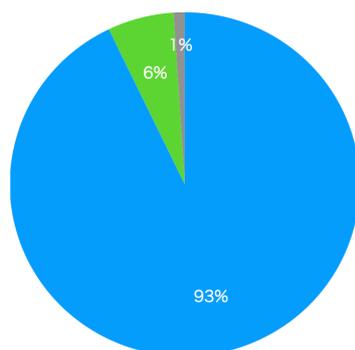
2.当センターの機関支援の利用について



3.当センターのスタッフについて

大変良かった	91
まあ良かった	6
普通	1
あまり良くなかった	0
悪かった	0
計	98

3.当センターのスタッフについて



● 大変良かった  
● まあ良かった  
● 普通  
● あまり良くなかった  
● 悪かった

## 4 収支状況

## ▽ 収支 札幌市自閉症者自立支援センター (千円)

項目	R3年度計画	R3年度決算	差(決算-計画)
収入	269,077	270,119	1,042
指定管理業務収入	269,077	270,119	1,042
指定管理費	19,875	19,875	0
利用料金	18,157	18,057	▲ 100
その他	231,045	232,187	1,142
自主事業収入	0	0	0
支出	270,862	272,428	1,566
指定管理業務支出	270,862	272,428	1,566
自主事業支出	0	0	0
収入-支出	▲ 1,785	▲ 2,309	▲ 524
利益還元			0
法人税等			0
純利益	▲ 1785	▲ 2,309	▲ 524

## ▽ 説明

○計画段階で想定はされたが、収支全体では新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた。入所については、外出自粛もあり、収入は堅調であったが、通所利用が増えず収支は大きくマイナスになった。支出全体では増加率0.6%で、支出が収入を上回り赤字となった。

○新型コロナウイルス感染による利用自粛傾向が続く中、感染症対策を徹底しても、利用控え、閉鎖せざるを得ない事態も想定されることから、収入増が見込めない状況にあり、事業所の努力にも限界がある。

A	B	C	D
	・自閉症者自立支援センター、自閉症・発達支援センターともに支出超過となっているが、新型コロナウイルス感染症の影響による減収が原因であると認められる。		
	・自閉症・発達障がい支援センターでは計画より経費の縮減に努めている点は評価できる。		

▽ 収支 札幌市自閉症・発達障がい支援センター (千円)			
項目	R3年度計画	R3年度決算	差(決算-計画)
収入	41,395	41,285	▲ 110
指定管理業務収入	41,395	41,285	▲ 110
指定管理費	30,715	30,715	0
利用料金			0
その他	10,680	10,570	▲ 110
自主事業収入			0
支出	47,171	44,038	▲ 3,133
指定管理業務支出	47,171	44,038	▲ 3,133
自主事業支出			0
収入-支出	▲ 5,776	▲ 2,753	3,023
利益還元			0
法人税等			0
純利益	▲ 5776	▲ 2,753	3,023
▽ 説明			
<p>○支出の大半は人件費である。人件費及び若干の事務費の支出抑制により、マイナスの収支差額を計画より抑制することはできたが、計画との差であり、人件費が収入を上回る傾向は変わらない。</p>			

○おがるの業務は、高い専門性を必要とすることから、一定の経験がある職員を配置をしなければならぬ。できる限り支出抑制しても経験者配置による人件費支出を収入見合いに下げることは難しい。

<確認項目> ※評価項目ではありません。						
▽ 安定経営能力の維持		<table border="1"> <tr> <td>適</td> <td>不適</td> </tr> <tr> <td colspan="2">           ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業所単体としての収支は赤字となったが、赤字額も小さく、法人全体としては安定した経営を保持している。         </td> </tr> </table>	適	不適	・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業所単体としての収支は赤字となったが、赤字額も小さく、法人全体としては安定した経営を保持している。	
適	不適					
・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業所単体としての収支は赤字となったが、赤字額も小さく、法人全体としては安定した経営を保持している。						
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応		<table border="1"> <tr> <td>適</td> <td>不適</td> </tr> <tr> <td colspan="2">           ・各条例を順守し、適正に対応している。         </td> </tr> </table>	適	不適	・各条例を順守し、適正に対応している。	
適	不適					
・各条例を順守し、適正に対応している。						
<p>▼法人全体では黒字経営が続いており、ゆいとおがるの経営に万が一の危機が生じたとしても十分な補完能力を有している。</p>						
<p>▼「暴力団排除推進条例の適用について」に十分留意し、契約その他の行為に関わることがないように適切に事務等を進めている。そのほか各条例の規定に則り、全て適切に対応するようにしている。</p>						

## Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>ゆいの使命としては「地域生活へ戻す」取り組みの推進や、不適応行動に対して予防の視点を持ち家庭生活等へのサポートをすることである。この使命に向かって進むキーワードとして「最前線と最高峰をめざして」を掲げ、そのために「支援力を上げる」「組織力を高める」「人間力を磨く」という3つの観点からの取り組みを進めた。「地域に戻す」という使命に関して、令和3年度も地域へ戻すための取り組みを進めたが、新型コロナウイルス感染症の影響から、地域の暮らし体験などを計画的に実施することはできなかったが、感染状況を踏まえ、また予防の徹底を図りながら地域に戻るための取り組みを今後も継続していく。</p> <p>5月に生活介護事業所のないろが開所することとなり、伴って当センター生活介護利用者の大部分が移行した。事前の準備やシミュレーションを重ね、コロナ感染の状況には苦慮したが、1か月をかけて無事に移行することができた。一方で当センターの生活介護に空きができたため新規利用者を募ったが、年度途中の6月からの利用開始ということもあり、定員を満了することができず3名の方にご利用いただくこととなった。職員体制の課題はあるが引き続き新規利用の募集を行っていく。</p> <p>短期入所については、他利用者との相性や性別への配慮、児童と成人の住み分けなどにも配慮し短期入所の利用をすすめている。令和3年度は引き続きコロナウイルスの感染状況を踏まえ、利用の自粛要請と緩和を繰り返しつつ、緊急性のあるニーズに対しては、感染予防のための情報交換を密におこない、ご利用いただいた。今期も新規ご利用の希望をいただいたが、コロナ感染症の影響から見学日の調整が叶わず、利用には至らなかった。</p> <p>短期入所を利用いただくにあたり、一定の手続きでアセスメントや引継ぎができるよう、受け入れ側の効率化を図るための協議は継続した。</p> <p>3つの観点に関してであるが、「支援力を上げる」ひとつとして、法人全体でのケースカンファレンス開催や医療機関との情報交換を密に行い、情報の収集や今後の暮らしの在り方について活発な意見交換を行うことができた。また、コロナ禍ではあるが、職員の学びを応援するために年4回のゆい塾を開催した他、道内外の研修や法人内事業所交流などもリモートや動画視聴等で実施した。</p> <p>「組織力を高める」取り組みとして、人権推進委員会が企画した「利用者対応に関するセルフチェック」を2回実施し、結果の違いや傾向を分析すると共に、全体に反映することで共通意識を高めることができた。また、例年の余暇委員会では利用者の活動の様子などを中心とした動画作成などを行い保護者と共に直接お会いしての意見交換会を実施していたが、コロナウイルスの感染予防の観点から、実施を見送ることとなった。代わりに、職員間で協力し日々の利用者の様子を写真に収め、全ての保護者にアルバムとして贈ることができた。そして「人間力を磨く」取り組みとして、作業委員会や余暇委員会から利用者のアート作品の製作、カラフルブレインアートフェスティバルの出演やゆい内での展示、またご完成した作品をご家族へプレゼントすることができた。</p> <p>ゆいにおいては、入所の3つのブロックや生活介護、4つの委員会を中心として、医療・栄養・事務・そして今年度より発達検査チームも加わり、利用者の方々の生活を支える関係スタッフとの協働が横断的に、そして日常的に行われている。コロナウイルス感染予防のため、最小人数での会議開催など3密の回避を実践すると同時に、施設内でのリモート会議の充実を図り情報共有を重</p>	<p>ゆいの使命として、行動上の問題に対する予防的な支援と地域生活の実現を掲げている。そのための具体的な骨子を共通言語として打ち出すことで、職員全体の意識をまとめていきたいと考えている。</p> <p>最前線と最高峰をめざして</p> <p>◇地域に戻る取り組み</p> <p>①地域に戻る取り組みの継続</p> <p>→コロナ禍ではあるが、リスクを回避しつつ移行に向け準備をすすめていく</p> <p>→地域での暮らしを支えるための職員確保をすすめる</p> <p>日常生活のイメージが持てるよう、学生アルバイトの積極的な受け入れをすすめる</p> <p>②よもぎの体験利用</p> <p>→移行シミュレーションに基づいた計画的利用</p> <p>→女性利用者や日中のみの利用など利用方法の工夫</p> <p>◇バックアップ施設としての役割</p> <p>③グループホーム支援体制維持のための仕組みづくりをなないと協働ですすめていく</p> <p>◇地域の方々へのサポート</p> <p>④新規の短期入所の利用ニーズに対応する</p> <p>→隣接する地域生活支援センター「なないろ」との役割分担をすすめる</p> <p>⑤ショートステイ利用の際の効率化(アセスメント)を図る</p> <p>⑥生活介護事業所の新規利用者の受入れ</p> <p>→相性を踏まえた送迎体制の確保や、作業工賃を還元できるような作業開拓をすすめる</p> <p>◇地域への貢献</p> <p>⑦コロナ禍でも可能な支援者実習の受け入れ</p> <p>⑧町内会活動への参画とゆいイベントへの招待</p> <p>⑨災害時の協働</p> <p>ゆいバリューに基づく実践</p> <p>◇「証」根拠に基づくチャレンジをする</p> <p>①個別支援計画の書式を更に分かりやすいものに進化させていく</p> <p>②ゆい塾の効果的活用(コロナ禍での動画配信等を駆使して)</p> <p>学び、プレゼン力、医療知識、危機管理など</p> <p>③全員が何らかの研修に参加できるように</p> <p>座学、ワークショップ、法人内の事業所研修など深化させる</p> <p>④プレゼン力を磨くため複数職員による発表の場を確保</p> <p>◇「和」チームとして一流をめざす</p> <p>⑤チーム支援(年3回)によるチーム力アップと全体への還元</p> <p>⑥新職員のためのエルダーメンターシステムとその振り返り</p> <p>⑦機能的な組織となるよう業務の効率化及び各職員の役割、各種</p> <p>会議のコンセプトを示していく</p> <p>◇「快」きれいなゆいを常にめざす</p> <p>⑧修繕や整備予算の確保</p> <p>建物が15年を超え、設備や配管等の水漏れや故障も見られる</p> <p>ことから、破損修復やこれまで以上に予防のための整備など</p> <p>計画的な修繕をすすめる</p> <p>⑨職住分離を進めるための支援プランづくり</p> <p>⑩ゆい親和会と協働で、環境の美化に努める</p> <p>◇「続」最強の支援力はコツコツである</p> <p>⑪ゆいバリューの確認と振り返り</p> <p>⑫人権意識の向上に関する取り組みの継続</p>

<p>に、施設内での感染リスクを低減するための研修や専門スキルや職業人として、また医療の基本的な知識を高めるための研修、関係スタッフとのケースカンファレンスなど活発に行われている。</p> <p>コロナウィルスの感染予防については、法人としての啓発のみならず、ゆい内でもフェーズ3を示し具体的な予防策の実施とともに、利用者の外出など感染リスクを減らすための協議と取組みが行われた。残念ながらコロナウィルスの感染は確認されたが、早期介入と情報共有、そして感染のリスクを伴う対応にも果敢に向き合ってくれたスタッフは大きな誇りである。またいつもと違う日課になることで不安定な状況になる利用者もいた中、新たな生活様式にチャレンジするため粘り強く対応しているスタッフの日頃の努力と奮闘にあらためて敬意を表したい。</p>	<p>⑤ 各種意識職員の向上に因るアートの活用</p> <p>@ディスカバリー(ヒヤリハット)報告の定着と啓発          @誤薬防止への強い意識と啓発活動          @コロナウイルスへの感染予防と利用者サービスへの配慮と工夫</p> <p>新しい生活様式の実践を積み重ねる(マスク着用、手洗い、手指消毒など)</p> <p>◇「安」 やわらかくおだやかな雰囲気のある職場でありたい          @年3回程度の余暇企画とセルフチェックの実施継続          @夜間避難や水防対策の訓練と課題の検証          @各種書類の重要性と書き方のレクチャー</p> <p>◇「暖」 私たちの好感度が上がれば、利用者さんの好感度も上がる          @アートで工賃を還元できることをめざした取り組みを進化・深化          @既存の商品に付加価値を付ける視点でのアート展開          @社会人(職業人)としてのマナーアップについての取り組みを継続させる</p> <p>そして、2022年度のゆいは進化・深化を掲げ、更にチームとして成長していきたい。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>自閉症者自立支援センターは、強度行動障がい有する利用者に対して、専門的かつ模範的な取組を行っており、特に高く評価できる。また、地域移行においては、法人が運営するグループホームの体験利用等の積極的な活用により、地域移行の推進を図っている点も評価できる。</p> <p>自閉症・発達障がい支援センターは、研修等を通じ、自閉症・発達障がいに関する普及・啓発活動を積極的に行うなど、本市の基幹支援施設としての機能を十分に発揮しており、高く評価できる。</p>	<p>全体としては、十分な利用率を確保しているが、短期入所においては引き続き利用率の向上の方策を検討してもらいたい。</p>